

登録コード	HM105200	開講年度	2026				
授業題目	分子生命科学特論					担当教員	沢村 達也 他
英文授業名	Molecular Biology					副担当	垣野 明美
単位数	3	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室				授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					(授業の達成目標)	
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加						
	【研究科共通_2024年度以前加枠対象】専門分野以外の課題を見渡し自身の研究課題の社会的意義を再認識する俯瞰力					自分の分野にとらわれない、広い領域のデータを解釈する能力を養い、自身の研究の位置づけを知ることができる。	
	【専攻】医学・保健学研究において基礎・応用・臨床の枠を越え、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力					既にあるデータから、そこで想定されていないことや将来の展開を洞察し、自ら見つけ出すことができる。	
(2)詳細/Detailed information	循環器系の分子生命科学に関する最新の知見から、独自の視点により問題を発見・解決する方法を習得する。						
(3)授業の概要/Overview of course	循環器系を構成する分子の機能発現機構、分子間相互作用から、分子レベルでの動的制御機構、恒常性維持機構と病態生理学を討論することにより、これらを理解し、何が生命科学・医学上問題で、これらの問題をどのように分析・研究するかを考える能力を高める。						
(4)授業計画/Course plan	主に心臓・血管・血液およびそれらを構成する分子に関する、動的制御機構、恒常性維持機構と病態生理学を討論する。(全23回)						
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	(i)実験データを適切に解釈し・説明することができ、 (ii)それを発展させる方法、不足している部分とその解消法を指摘・提案でき、 (iii)実際の実験・研究方法を実施できる形に落とし込むことができ、 (iv) プレゼンテーションとして他の研究者に自分の考えを充分表現し、同意を得ることができることを目指す。 これらの4項目すべてが達成されれば「卓越している（秀）」。3項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。2項目ができていれば「やや上にある（良）」。(i)のみ満たされていれば「水準にある(可)」。						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep work/Textbook(s)/Reference work(s)	ただ研究データの意味を理解するだけではなく、それをいかに発展させるかについて、充分に自分の頭を使って考えた上で、自分なりの展望を描いて教員との議論に臨むことを期待する。						
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	随時質問を受け付ける。 生理学教室に来ていただく場合は、平日12:10-13:00、メールの場合はsawamura@shinshu-u.ac.jp.						
(8)授業の形式/Course format	最新研究論文データや研究室内実験データをベースとした、解説、討議。パワーポイントを用いたプレゼンテーション。						